

2015年3月期第2四半期決算説明会 主な質疑応答

1. 株主還元に関する考え方は？

- ・ 将来の投資に備えた内部留保の充実を配慮しつつ、安定配当を基本として株主還元を行っている。2014年度は年間で6円の配当を予定しており、本日（11月5日）の取締役会で中間配当3円の実施を決議した。

2. 航空・宇宙・防衛事業領域の工事採算が前年同期比で好転している具体的な内容は？

- ・ 2013年度は為替円高の際に調達した材料費の好影響があり、今年度の当初予想では、この好影響が無くなる分の悪化を見込んでいた。しかし、スペアパーツ、スペアエンジンなどの高採算工事の増加により悪化が抑えられ、逆に好転した。

3. 社会基盤海洋の営業利益が予想より悪化した要因は？

- ・ 愛知工場の工事投入遅れによる操業差損と橋梁における売上のずれが主な要因である。トルコで工事中のイズミット橋については、9月末時点では工事進行の遅れが発生していたが、年内にキャッチアップできる。ずれによる減収減益がある。また、橋梁は2013年度に続き高難度工事の影響が残っている部分はあるが、工場の生産性は改善傾向にある。

4. 資源・エネルギー・環境事業、社会基盤・海洋事業で工事の採算悪化が続いているようだが、考え、対策は？

- ・ プロジェクト管理を厳密に行うことによって悪化の兆候を早く見付け出し、対策を実施するという活動は続けている。仕様変更等によるコストの発生が請負金変更に先行して発生しているものもある。工事全体の採算を改善するために、しっかりと手を打っていく。

5. 車両過給機の採算改善が進んでいるようだが、産業システム・汎用機械事業の業績予想を変更していない理由は？

- ・ 為替変動の影響の上期実現分、採算改善要素はあるが、欧州における車両過給機の増産対応費用が発生するため、産業システム・汎用機械事業全体での変更は行っていない。

6. 海外案件のプロジェクト管理は大丈夫か？

- ・ 海外プロジェクトを担当する人員は各事業領域で適切に配置している。特に資源・エネルギー・環境事業ではプロジェクトを遂行可能な上限数を定めており、それ以上は受注しないという方針で進めている。